



2020年11月13日

各位

会社名 ワシントンホテル株式会社
代表者名 代表取締役社長 内田 和男
(コード番号:4691 東証第二部、名証第二部)
問合せ先 取締役経理財務部部長 森 良一
(TEL. 052-745-9036)

2021年3月期業績予想及び配当予想並びに中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2020年8月13日に公表した「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」において未定としておりました業績予想及び配当予想を下記のとおりといたしましたので、お知らせいたします。また、2021年3月期を初年度とする3ヶ年の中期経営計画を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想について

(1) 2021年3月期 連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回修正予想 (B)	5,708	△6,670	△7,003	△6,930	△572.80
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(参考) 前期連結実績 (2020年3月期)	19,786	1,269	1,218	408	37.06

(2) 業績予想の理由

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大による影響を合理的に算定することが困難であることから未定としておりました。依然として同感染症の収束時期は不透明であり、今後の経営環境を予測することは引き続き困難な状況ではありますが、現時点において入

手可能な情報及び上半期の実績等に基づき業績予想を算定いたしましたので公表いたします。

ビジネス需要においては、オンライン会議の普及や企業の業績悪化に伴う出張抑制等の影響により、少なくとも今期中は従前には戻らないものと想定しておりますが、経済活動の自粛緩和も一定程度進むものと見ており、徐々に出張を再開する企業が増加していくことを想定しております。レジャー需要においても政府の観光支援策「Go To事業」の影響や各種イベント等の再開に伴い、緩やかに回復していくことを見込んでおります。

また、運営面における稼働状況に応じた最小人員配置や、不要不急の支出抑制等のコスト削減実行状況を織り込んで算出しております。

なお、今回の業績予想にあたり、新型コロナウイルス感染症の拡大による再度の緊急事態宣言の発出等は想定しておりません。従って、今後の感染状況の推移や政府・自治体の要請等により、本業績予想は大きく変動する可能性があります。今後、開示すべき重要な事項が発生した場合には、速やかに業績への影響を開示いたします。

2. 配当について

(1) 配当予想

	年 間 配 当 金				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	期末	合計
前回予想 (2020年8月13日)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
今回修正予想			—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00			
前期実績 (2020年3月期)	—	0.00	—	21.00	21.00

(2) 配当予想の理由

当社の剰余金の配当については、各事業年度の業績を勘案し、既存事業所の設備改修のほか、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ配当性向は、2021年3月期以降は25%を目安とした安定的かつ継続的な配当を行うことを目標とすることを基本方針としております。

しかしながら、2021年3月期の配当予想につきましては、当期の業績動向や依然として収束が不透明である新型コロナウイルス感染拡大に伴う財務リスクへの備え等を総合的に勘案した結果、無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3. 中期経営計画の策定について

(1) 計画期間 2020年4月から2023年3月

(2) 計画数値（最終年度）

売上高	16,674百万円
営業利益	808百万円
経常利益	517百万円
当期純利益	319百万円

(3) 策定の理由

新型コロナウイルス感染症が今後の社会、経済に及ぼす影響等は未だ不透明であり、先行きの見通せない厳しい経営環境が続いておりますが、変化の激しい外部環境に対応していくためにも、2021年3月期を初年度とする今後3年間の中期経営計画を策定いたしました。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

中期経営計画

2020-2022



本資料内の省略表記について

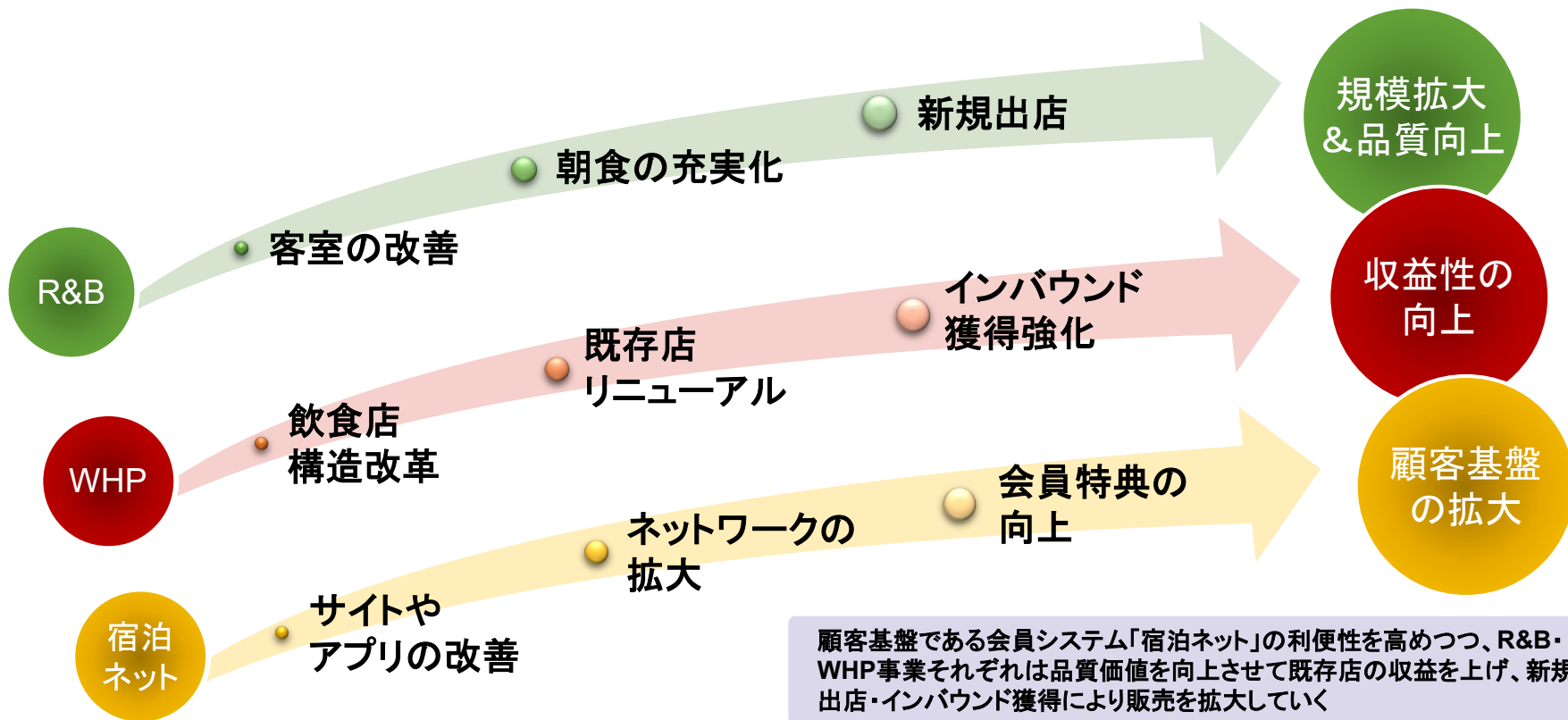
本資料内におきましては、便宜上、以下の省略表記を用いています。
<ホテルブランド名称> ワシントンホテルプラザ＝「WHP」、R&Bホテル＝「R&B」

目標・ビジョン

「お客様と従業員に高い満足を提供する」
「グローバル展開し安定性の高いポートフォリオを実現する」
「高い収益性を維持し企業価値を向上させる」



中期経営計画
(2021/3期～2023/3期)



機会

- 世界的イベントの国内開催と根強い海外旅行客の訪日意欲
- 働き方改革、有給取得義務化等による休日取得の増加及び分散化

リスク

- 感染症の拡大・長期化によるホテル利用需要の減退期間の長期化
- 新設ホテルの供給増加による競争激化
- Web会議、テレワークの増加による出張需要の減退

課題

- 利益率の一層の向上を図るための生産性の向上
- 売上の維持・拡大を実現するための指名率、リピート率の向上
- ホテルの経年劣化、デザインの古さによる競争力低下の改善
- ESG意識の高まり、市場からの要請に応え得る経営のバージョンアップ

マルチジョブ（＝多能工化）のさらなる推進

- WHPを中心に宴会場や複数の直営飲食店を持つ大型事業所でのマルチジョブの取り組みを加速させる



飲食店運営の構造改革

- 各飲食店舗のフロア及びキッチンの業務効率を構造的に見直し、オペレーション効率を高める
- 不採算の飲食店舗は店舗の閉鎖、入れ替えを含め改革を実行

機械化・IT化による業務効率の向上

ホテル部門

- 自動チェックイン機の導入によるフロント業務負荷の軽減
- 事業ごと別々である営業基幹システムの統一化と簡素化

2020年2月に高崎WHPに導入した
自動チェックイン機



管理部門

- RPAシステム等の業務自動化システムの活用
- 電子申請等のワークフローシステムの導入活用
- 宿泊ネット利用者等のビッグデータの分析活用
- 各種分析ツールの導入活用による事務作業削減
- 人事管理システムの刷新

タイアップ、提携の活用

- 藤田観光株式会社との宿泊サイトの相互利用の実施



- 地元自治体の復興支援を目的としたキャンペーンへの積極的参画

– 10月末までに、WHP17ホテル、R&B13ホテルが参画^{注1}

- 地場飲食店とのタイアップを通じた地方色あふれる宿泊パックの企画・販売を推進



(注1) キャンペーン終了分を含む (注2) 弊社調べ (注3) 企業や団体が自らの組織内に設置した旅行会社

販売チャネルの強化

「宿泊ネット」の
利用インセンティブ
及び利便性の向上

法人チャネルを
はじめとする
ネットワークの拡大

- ポイント還元率を5%から7%に引き上げ
- ホテル業界初^{注2}となるPayPayギフトカードへのポイント交換特典を新設
- インハウスエージェント^{注3}、法人契約先の拡大
- 新たなOTA等との提携拡大

📌 メリット1

7% ポイント還元

📌 メリット2

うれしいポイント交換！

宿泊料金
として利用可能

amazon.co.jp
ギフト券

PayPay
ギフトカード

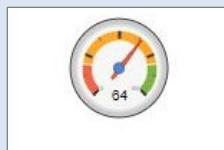
とも交換可能

フロントで交換
キャッシュバック

おもてなしの向上

- 新たにクチコミ分析ツールを導入し、分析対象のサイトを拡大した他、寄せられたクチコミの分析強化と、お客様の指摘に対する改善策の実施をスピードアップさせる仕組みを導入（2020年3月～）

分析ツールメニュー例



研修を通じた
従業員の
おもてなし力の向上

Web研修、オンライン研修の導入
通信教育補助制度の新設

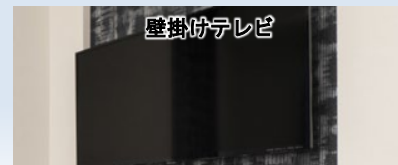
R&Bの商品力強化

Roomの 充実化

- サーモ式混合栓、シーリングライト等への交換
- 湯沸かしポット、壁掛けテレビ等の導入

Breakfastの 充実化

- 無料朝食の提供アイテムの拡充
- パン屋さんでパンを選ぶような「愉しみ」を提供



新規出店による事業の拡大

- 出店地を厳選し、着実に利益が出せるエリアへの出店により事業を拡大する
- 数ありきではなく、厳選した好立地に出店することで高収益性を確保
 - 政令指定都市を中心
 - 最寄駅から徒歩5分程度
- 年間1~2店舗ずつ
- 出店ブランドはR&Bが中心だが、観光需要も強いエリアではWHPでの出店も検討

開業年月	名称	客室数	運営形態
2020年11月1日	R&B名古屋駅前	237	自社所有
2022年3月（予）	札幌WHP（仮称）	259	リース



既存ホテルのリニューアルによる品質向上

- 既存店の改修工事を実施し競争力を向上につなげる
 - 開業年月の経つホテルを中心に
 - 年間1~2店舗ずつ
 - 客室内リニューアル、ホテルロビー、フロントカウンター、エレベーター、客室フロア、客室内照明・水回りなど

工事完了年月	名称	客室数
2021年3月（予）	博多中洲WHP	247
2021年3月（予）	R&B東日本橋	201
2023年3月（予）	R&B上野広小路	186
2023年7月（予）	熊本WHP	350

リニューアル事例

博多中洲WHP（2021年3月完了予定）

※1フロアごとに改修工事を実施中



プラスチック製品の使用抑制



2000

客室への歯ブラシ・かみそりの常備を止め、持参を呼びかける活動をスタート

2005

歯ブラシ・かみそり持参5回で500円分QUOカードの進呈を開始

2018

プラスチックマドラーを木製に変更

2019

プラスチックストローを生分解性のものに変更

プラスチック製品のさらなる使用抑制に努め地球にやさしい企業運営を行う

公共スペースとしてのホテルの在り様の確立



現在、当社の一部ホテルにおいて以下の取り組みを実施しており、今後も自治体等に積極的に協力

災害時帰宅困難者受入施設として登録

AED（自動体外式除細動器）の設置

犯罪被害者等に対する宿泊施設として登録

AEDの早期設置を目標とするほか、地域と共生できるホテル運営を行う

業績計画（単位：百万円）

	2021年3月期 ^注	2022年3月期 ^注	2023年3月期 ^注	計画策定の前提
売上高	5,708	15,211	16,674	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症流行の収束時期については、国内は2021年6月頃を見込む一方、インバウンド観光客受入れ再開時期は中計期間中は見込まず ■ 東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う観光需要は見込まず ■ 設備投資については7ページ記載のものを見込む
営業利益	△6,670	348	808	
（営業利益率）	（ - %）	（2.3%）	（4.8%）	
経常利益	△7,003	177	517	
親会社株主に帰属する当期純利益	△6,930	83	319	
EBITDA	△5,835	1,294	1,765	

（注）当社の子会社である名古屋国際ホテルは、2020年9月30日をもって営業を終了しております
業績計画は、2021年3月期は連結、2022年3月期以降は単体としております

株主還元の 考え方

- 株主還元は配当を中心に実施
- 基本方針は「業績を勘案しつつ、既存事業所の設備改修のほか、将来の事業展開と経営体質の強化、並びに不測の事態の備えのために必要な内部留保を確保しつつ、配当性向25%を目安とした安定的かつ継続的な配当を実施」すること
- 但し、今中計期間中は株主の皆様のご期待を勘案しつつも、今後の業績の推移・見通しに基づいて決定する方針

免責事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等様々な要因により、実際の業績は言及または記述されてる将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。
- なお、図表を含め当資料の著作権はワシントンホテル株式会社が保有しております。

本資料に関するお問い合わせ先

ワシントンホテル株式会社 経営企画室

TEL : 052-745-9035 E-mail : pr@washingtonhotel.co.jp